

# 地震について

## ■ 南海トラフ地震

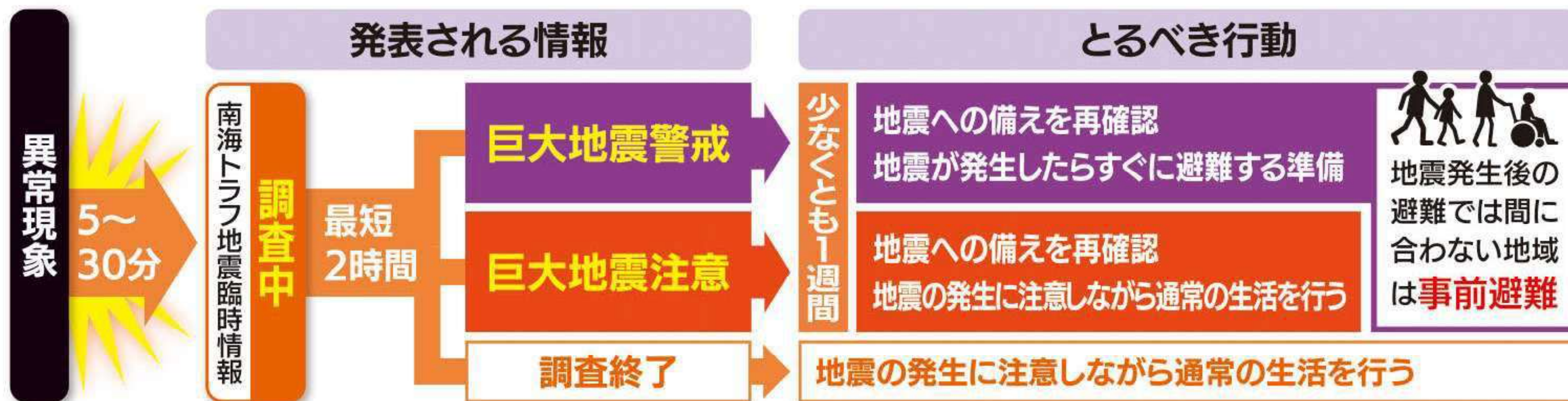


今後30年以内に  
起こる確率60~90%程度

南海トラフ地震は、太平洋沖に帯状に伸びている南海トラフで起こる地震のことです。地震調査研究推進本部によると、マグニチュード8~9クラスの地震が発生する確率は「今後30年以内に60~90%程度もしくはそれ以上」と評価されています(令和8年1月1日現在)。

## ■ 南海トラフ地震臨時情報

「南海トラフ地震臨時情報」とは、南海トラフにおいて地震発生の可能性が相対的に高まっていると評価された際に気象庁から発表される情報です。臨時情報が発表された際は、後発の大規模地震の発生に備え、国や県・町等からの呼びかけに応じた防災対応をとりましょう。



## ■ 緊急地震速報を見聞きしたら…

周囲の状況に応じて身の安全を確保しましょう

「緊急地震速報」は、最大震度が5弱以上または最大長周期地震動階級が3以上と予想された場合に、震度4以上または長周期地震動階級3以上が予想される地域を対象に、テレビやラジオ、携帯電話、町の防災無線で皆さまに伝えられます。「緊急地震速報」を見聞きしてから数秒~数十秒後に強い揺れが始まりますので、この間に身を守るための行動をとる必要があります。ただし、震源域に近い地域では「緊急地震速報」が強い揺れに間に合わないことがあります。



## 緊急地震速報を見聞きしたら…

- | 家庭では                                  | 自動車運転中は  | 鉄道・バス乗車中は          |
|---------------------------------------|--|--------------------|
| ●頭を保護し丈夫な机の下などに隠れる。<br>●あわてて外へ飛び出さない。 | ●あわててブレーキをかけない。<br>●ハザードランプを点灯し、揺れを感じたらゆっくり停止。 | ●つり革・手すりにしっかりつかまる。 |

周囲の状況に応じて  
あわてずに  
まず身の安全を確保する!

## ■ 震度と揺れの状況

震度 4	震度 5弱	震度 5強
<ul style="list-style-type: none"> <li>●ほとんどの人が驚く。</li> <li>●電灯などのつり下げ物は大きく揺れる。</li> <li>●座りの悪い置物が倒れることがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●大半の人が恐怖を覚え、物につかまりたいと感じる。</li> <li>●棚にある食器類や本が落ちることがある。</li> <li>●固定していない家具が移動することがあり、不安定なものは倒れることがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●物につかまらなると歩くことが難しい。</li> <li>●棚にある食器類や本で落ちるものが増える。</li> <li>●固定していない家具が倒れることがある。</li> <li>●補強されていないブロック塀が崩れることがある。</li> </ul>

震度 6弱	震度 6強	震度 7
<ul style="list-style-type: none"> <li>●立っていることが困難になる。</li> <li>●固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。ドアが開かなくなることがある。</li> <li>●壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。</li> <li>●耐震性の低い木造建物は、瓦が落下したり、建物が傾いたりすることがある。倒れるものもある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●はわなないと動くことができない。飛ばされることもある。</li> <li>●固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが増える。</li> <li>●耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものが増える。</li> <li>●大きな地割れが生じたり、大規模な地すべりや山体の崩壊が発生することがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものがさらに増える。</li> <li>●耐震性の高い木造建物でも、まれに傾くことがある。</li> <li>●耐震性の低い鉄筋コンクリート造の建物では、倒れるものが増える。</li> </ul>

## ■ 液状化にも注意が必要です 液状化とは?

海岸沿いや川沿いの低地では、地下水位が高く、砂地盤などがゆるく堆積している所も多くあります。地震により、激しく揺られると、土の粒子が水と混ざり合っ、一時的に液体のようになります。これを液状化現象といいます。



液状化がおこると、  
次のような被害が  
発生します

- ①地盤の支持力が低下することにより発生する、建物等の沈下や傾斜
- ②噴砂(水と砂が地中から噴き上げてくる現象)などによる被害
- ③地下に埋設された水道管・ガス管・電線の損傷による、ライフラインの寸断

災害に備えて

風水害

内水・土砂

洪水

高潮

地震・津波

避難施設等

## ■ 大津波警報・津波警報・注意報

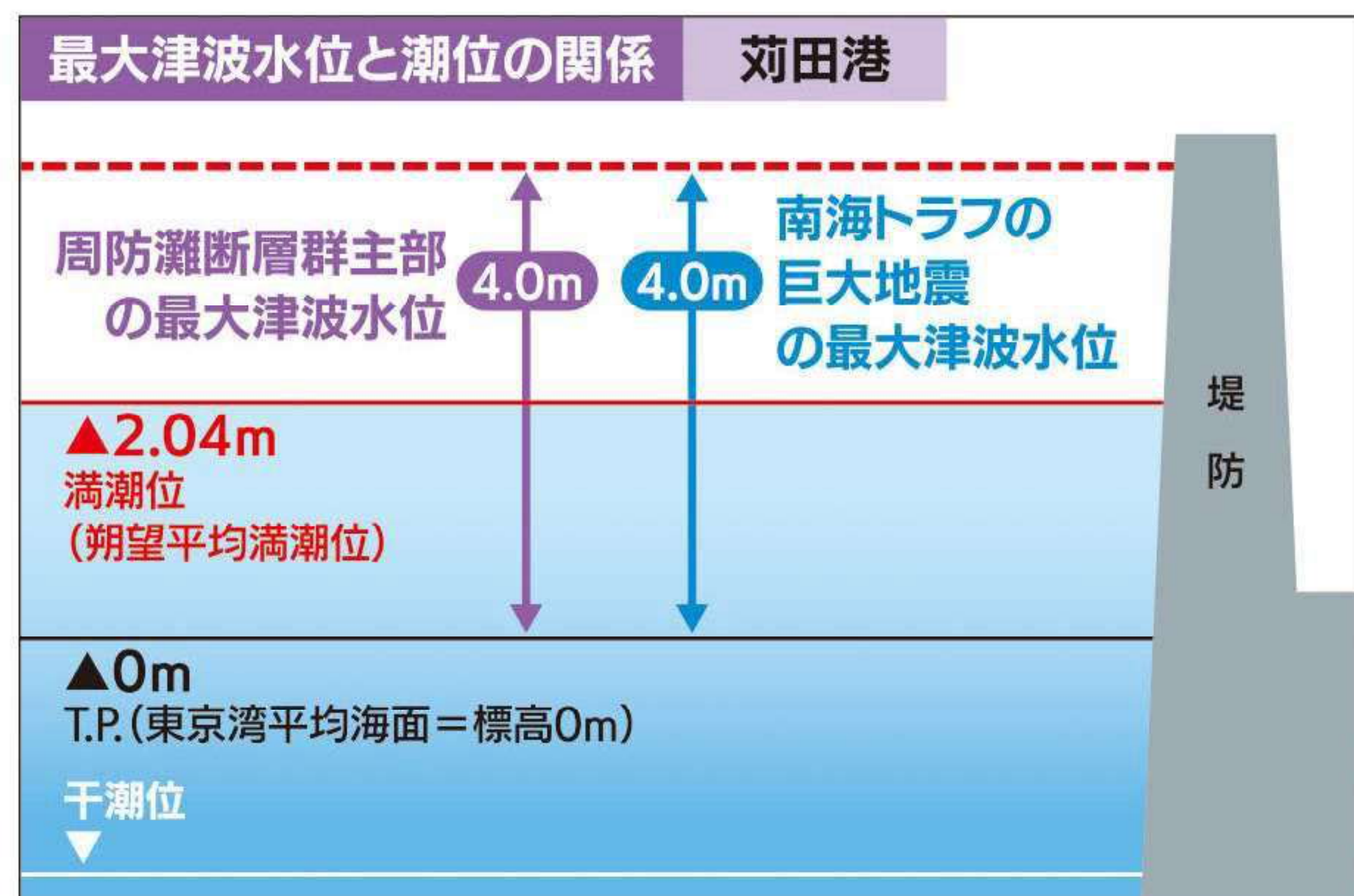
地震発生後、津波による災害の発生が予想される場合には、気象庁より「大津波警報」「津波警報」「津波注意報」が発表されます。大津波警報や津波警報の時は、すぐに以下のような行動をとりましょう。

	予想される津波の高さ		とるべき行動	想定される被害
	数値での発表	巨大地震の場合の発表		
大津波警報 (特別警報に位置付け)	10m超 (10m<予想高さ)	巨大	<ul style="list-style-type: none"> <li>●沿岸部や川沿いにいる人や、津波災害警戒区域内の住民は、ただちに高台や避難ビルなど安全な場所へ避難してください。</li> <li>●津波は繰り返し襲ってくるので、津波警報が解除されるまで安全な場所への避難を続けてください。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●木造家屋が全壊・流失します。</li> <li>●人は津波による流れに巻き込まれます。</li> </ul>
	10m (5m<予想高さ≤10m)			
	5m (3m<予想高さ≤5m)			
津波警報	3m (1m<予想高さ≤3m)	高い	<p><b>ここなら安心と思わず、より高い場所を目指して避難しましょう!</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●標高の低いところでは津波による浸水被害が発生します。</li> <li>●人は津波による流れに巻き込まれます。</li> </ul>
津波注意報	1m (0.2m≤予想高さ≤1m)	(表記しない)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●海の中にいる人は、ただちに海から上がって、海岸から離れてください。</li> <li>●津波災害警戒区域内の住民は、いつでも避難できるように準備してください。</li> <li>●津波注意報が解除されるまで海に入ったり海岸に近づいたりしないでください。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●海の中では人は速い流れに巻き込まれます。</li> <li>●養殖いかだが流失し、小型船舶が転覆します。</li> </ul>

■震源が陸地に近いと津波警報が間に合わないことがあります。「揺れたら避難」を徹底しましょう。■津波は沿岸の地形などの影響により局所的に予想より高くなる場合があります。より高い場所を目指して避難しましょう。■地震発生後、予想される津波の高さが20cm未満で被害の心配がない場合、または津波注意報の解除後も海面変動が継続する場合には、「津波予報(若干の海面変動)」が発表されます。

## ■ プレート境界周辺で起こる津波

プレート境界周辺で起こる津波については、周防灘断層帯および太平洋沖の南海トラフによる巨大地震が想定されており、周防灘断層帯では、M7.2の地震発生に伴い、津波水位4.0mの津波が到達すると想定されています。



### ● 釧田町で想定される津波水位

海底活断層による津波	プレート境界周辺で起こる津波
周防灘断層群主部	南海トラフの巨大地震
最大津波水位	最大津波水位
4.0m※1	4.0m※2

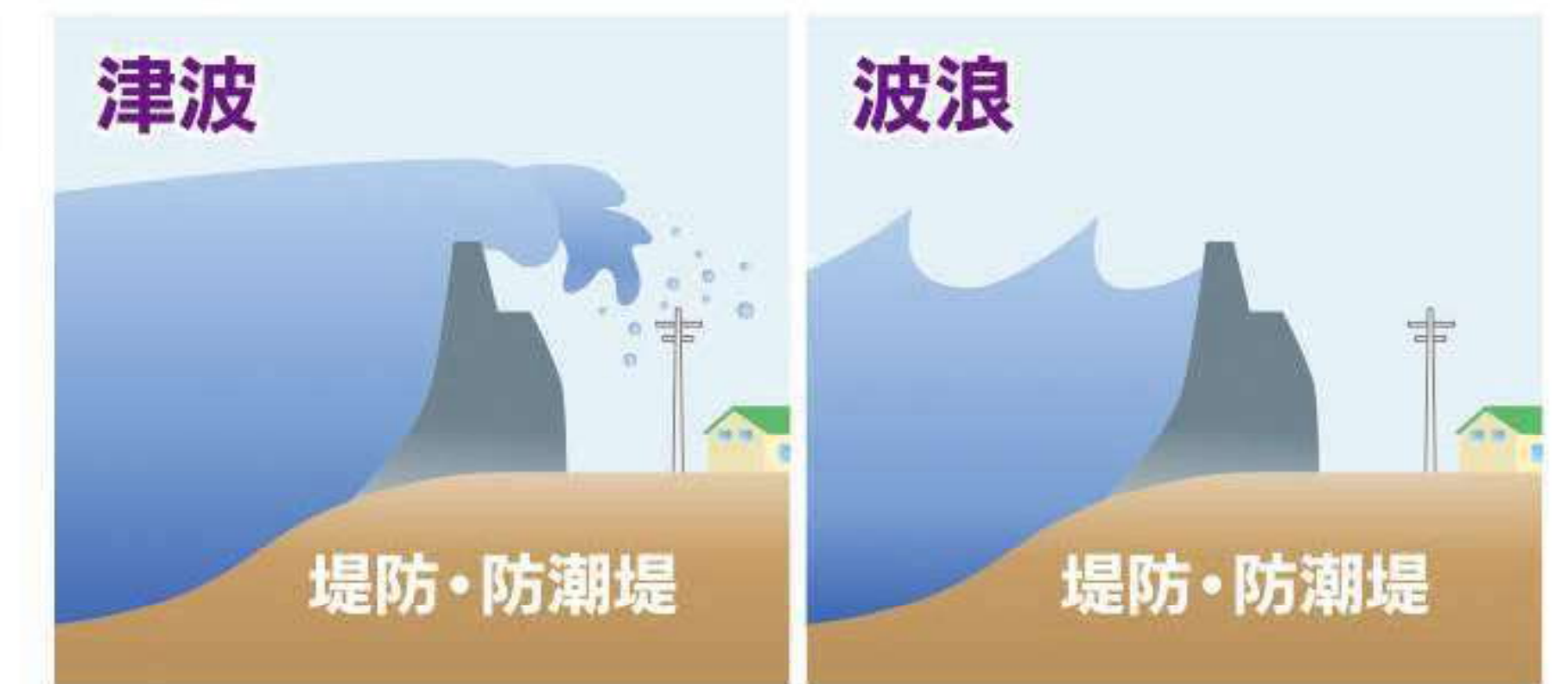
※1 福岡県による「福岡県津波浸水想定の設定について」(平成28年2月)  
 ※2 国が設置した「南海トラフ巨大地震モデル・被害想定手法検討会」による「津波高」(令和7年3月)

## ■ 津波の特徴

地震・津波はいつ、どこで発生するか分かりません。津波が到達するおそれがある場所にいるときは、できるだけ早く、高いところに逃げる必要があります。津波の特徴を知り、身を守るためのポイントをしっかりと確かめておきましょう。

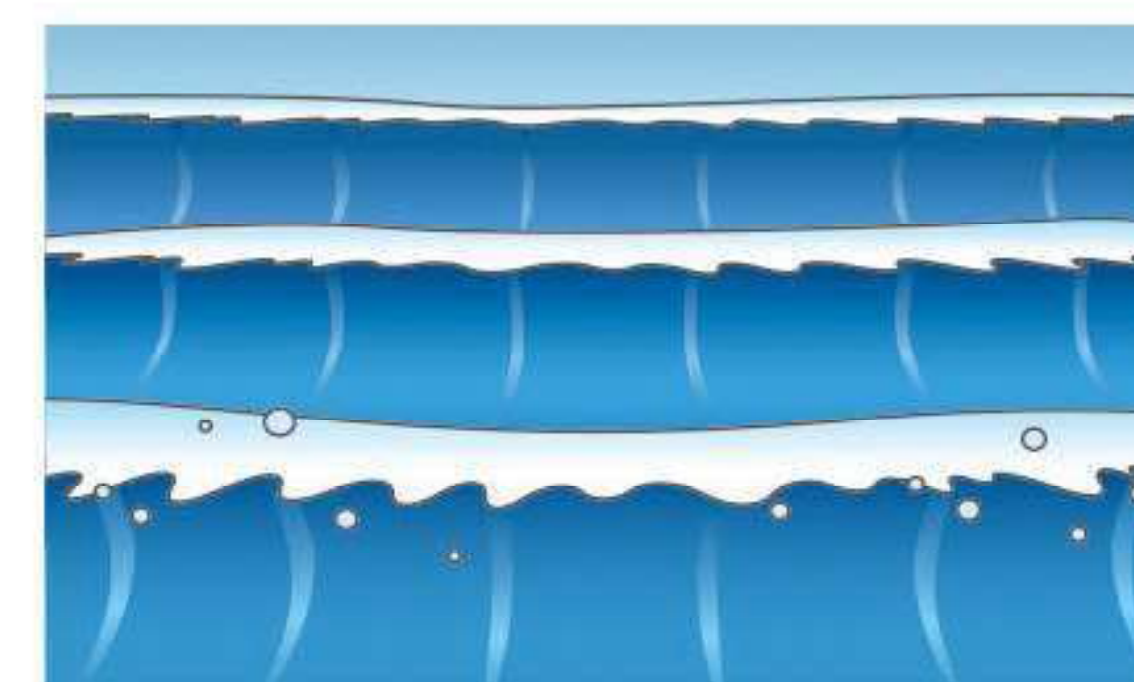
### 津波の破壊力は凄まじい

- 普通の波(波浪)と違い、津波は海底地盤の上下による海水全体の動きのため、海底から海面までのすべての海水が巨大な水の塊となって沿岸に押し寄せ、その破壊力は凄まじいものとなります。
- 引き波も長時間にわたり引き続けるために、家屋などが一気に海中へと引き込まれてしまいます。



### 津波の速度は速い

- 津波が陸上をさかのぼるときの速さは、時速36km程度になります。これはオリンピックの短距離走者並みの速さです。
- 津波が見えてから、走って逃げ切ることは非常に困難です。



### 津波は繰り返し襲ってくる

- 津波は長い時間繰り返し襲ってきます。また、最初に到達する波が最も大きいとは限りません。
- 一度波が引いても、津波警報・津波注意報が解除されるまで安全な場所から離れないでください。



### 津波は河川を遡上する

- 津波は河口から侵入し、何キロメートルも上流に遡上(逆流)することがあります。
- 遡上した津波が、河川堤防を越えて沿川地域に大きな被害をもたらすことがあります。
- 津波警報や津波注意報が解除されるまでは、海岸はもちろんのこと、河川にも絶対に近づかないでください。



### 津波の前に引き波があるとは限らない

- 津波は引き波から始まるとは限りません。
- 地震の種類や震源付近の地形などの影響によっては、いきなり津波が襲ってくる場合があります。

### 津波マップ

### 津波災害警戒区域について

津波災害警戒区域は、最大クラスの津波が発生した場合に、住民等の生命・身体に危害が生じるおそれがある区域で、人的被害を防止するために警戒避難体制を特に整備すべき区域として、平成30年に福岡県が指定しました。P49～52からの津波ハザードマップでは、浸水深に建物等への衝突によるせり上げ高を考慮した基準水位により着色しています。



実施機関: 福岡県港湾課(平成30年3月)

地震発生時には、あわてずに、まず身の安全を確保しましょう。また、海岸付近で強い揺れを感じた場合は、すぐに津波が来襲するおそれがありますので、津波警報や津波注意報の発表を待たず、ただちに高台などに避難してください。

## 地震発生! 自分の命は自分で守る

- 「頭を保護する」「大きな家具から離れる」「丈夫な机の下に隠れる」など、落ち着いて自分の身を守る。
  - ドアや窓を開けて、逃げ道を確保する。
- 津波のおそれのある沿岸部や、土砂災害の危険が予測される区域にいる場合はすぐに避難!



## 1~5分 家族を守る

- 揺れが収まってから行動。
- 家族の安全を確認。
- 火の元を確認・初期消火。
- 足をケガしないように靴をはく。
- 非常持ち出し品等を手元に用意する。
- 余震に注意。
- 電気のブレーカーを切る・ガスの元栓を閉める。(復旧時の火災・事故を防ぐため)
- 家屋倒壊などのおそれがあれば避難する。



## 5~10分 地域を守る

- 隣近所の安全を確認。
- 避難行動要支援者の支援。

### 安全な場所へ移動してから 防災行政無線やラジオ、スマートフォンなどで情報を確認

#### 情報が入手できない場合(津波があるかどうか分からないとき)

- 周囲の安全を確認し、速やかに高台などへ避難する。
- 津波のおそれがあるとき 津波警報が解除されるまでは戻らない!
- 周囲の安全を確認し、速やかに高台などへ避難する。
- ビルなどの屋内等で係員の指示がある場合は指示に従い、落ち着いて行動する。
- 津波のおそれがないとき 余震によって、津波が発生する可能性もあります
- 周囲の安全を確認し、余震に注意。
- ビルなどの屋内等で係員の指示がある場合は指示に従い、落ち着いて行動する。

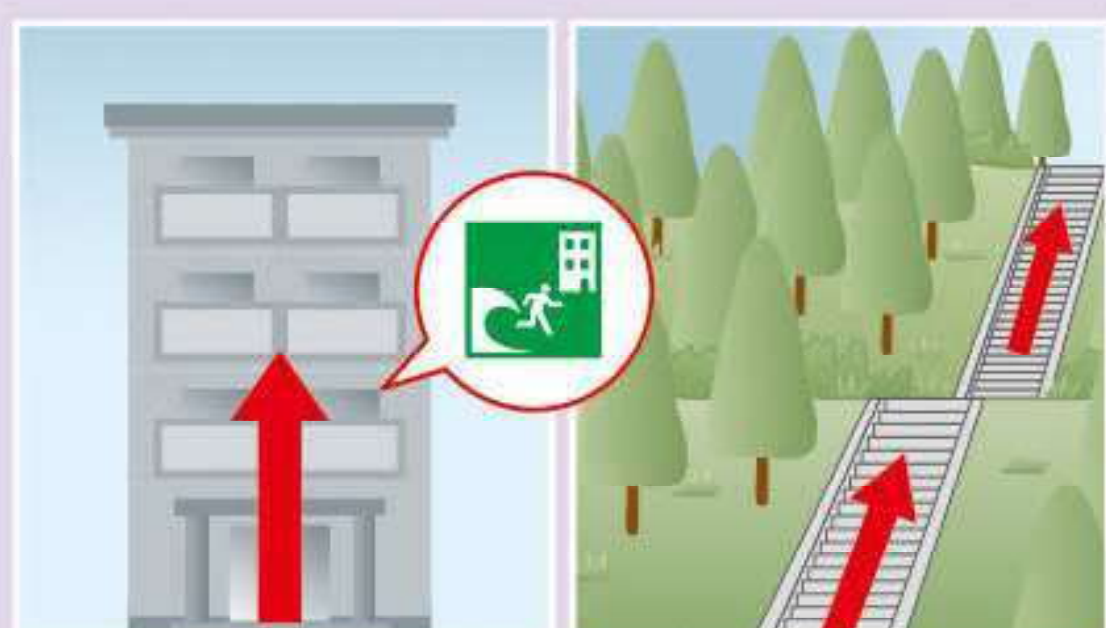


## 10分~数時間後 避難生活 助け合いの心で...

- 協力して消火・救出活動。
- 水・食料は備蓄品でまかなう。
- 災害情報、被害情報の収集。
- 壊れた建物には入らない。
- 引き続き余震に注意。
- 避難所では集団生活のルールを守る。



## 津波避難の心得



### より高い場所へ避難する

海岸から「より遠く」ではなく、「より高い」場所へ避難しましょう。



### 車での避難は控える

車は、約30cmの浸水で走行困難になります。車での避難は控えましょう。

## ■ 屋内の安全対策

地震で建物が倒壊しなくても、大きな家具の転倒、家電製品の落下、ガラスの飛散などにより大きなケガをしたり逃げ場をふさがれたりします。事前に家具などの固定や配置方法の工夫を行い、屋内の安全性を高めておきましょう。

### 収納に工夫を

- タンスや本棚などにもものを入れる場合は、重いものは下に、軽いものは上に収納するようにしましょう。
- 本棚は隙間をブックエンドで固定するなど、なるべく空間を作らないようにしましょう。

### 照明器具の補強を

- 吊り下げ式蛍光灯は、チェーンなどで止めておきましょう。

### 置き方に工夫を

- 家具の下部の前方に転倒を防止するための板などを入れ、壁にもたれ気味にしましょう。
- 出入口や通路には、なるべく荷物を置かないようにしましょう。
- 就寝場所に家具が倒れてこないように、配置の工夫をしましょう。

### 地震のときに家具などが就寝部分に倒れたり、避難経路をふさぐ位置に配置しないようにしましょう。

正しい配置

### ガラスの飛散防止を

- 割れたガラスが飛び散るのを防ぐため、ガラス飛散防止フィルムを貼りましょう。

### 耐震金具を利用しよう

- 転倒防止金具**  
壁・柱・鴨居と家具を固定するタイプと、天井などに固定するタイプがあります。家具や室内の状況によって使い分けましょう。
- 重ね留め用金具**  
重ねた上下の家具を固定し、上の家具の落下を防ぎましょう。

### 扉・引き出し開放防止金具

地震発生時に、扉・引き出しが開かないように固定します。さらに、収納物の落下を防止するために棚板にふきんを敷いたり、木や金属棒などで飛び出し防止枠をつけると安心です。

### 手近な取り出しやすい所に運動靴などを用意しておく

災害時の足のケガを防止できます。

## ■ 屋外の安全対策

地震の揺れにより、ブロック塀などが崩れてケガをしたり、ガスボンベなどが倒れるなどした場合に、火災やケガにつながる場合があります。事前に家の周りを点検し、屋外の安全性を高めておきましょう。

### 壁・塀

- 壁や塀にひび割れなどがなければ、腐ったりしていないか点検しましょう。
- ブロック塀は、地震の揺れにより崩れる可能性があるため、できれば安全な生垣などにしましょう。

### ガスボンベ

- ガスボンベは、動かないように壁に固定しましょう。
- ガスボンベの周りには、物を置かないようにしましょう。